

阿賀浦コミ協だより

平成24年1月28日

広報第11号

阿賀浦コミュニティ協議会

年頭のご挨拶

阿賀浦コミュニティ協議会

会長 藤田 勇



新年明けましておめでとうございます。

皆さま方には日ごろ、阿賀浦コミュニティ協議会にご支援ご協力を頂き厚くお礼申し上げます。

昨年はいろいろなことがおきた激動の年でありました、特に3月11日に東日本を襲った未曾有の大地震、これが複合災害となり福島第一原発事故へと発展し大惨事となりました。一日も早く復興出来ることをお祈りいたします。

さて、昨年11月に新潟市教育委員会より「新潟市立小中学校の適正配置基本方針(案)、～より良い教育環境をめざして～」と「新潟市立小中学校の適正配置基本方針(案)の市民意見募集(パブリックコメント)結果について」の冊子がコミ協に送られて来ました。その概要をお知らせし、新年のご挨拶にいたします。

近年少子高齢化が急激に進み、その傾向は今後も続くものと見込まれ、併せて児童生徒数の減少化傾向も進むものと予測されます。

このような現状を考慮し、子供たちのために教育効果の向上と教育環境の整備を図る上で学校の適正配置が大きな課題となり、市教育委員会では平成20年7月、新潟市立学校適正配置審議会へ諮問、同審議会が検討をはじめ、そして中間報告がなされ、その後、各自治協議会に説明、平成23年8月に「小中学校の適正配置基本方針(案)」に対するパブリックコメントを実施、これ等を踏まえて同年10月に適正配置基本方針が策定されました。

その基本的な考え方としては

(1) 新潟市教育ビジョン

次代の新潟市を担う人材として、また国際社会の一員として、自覚と責任を持って生きることが出来る「学力、体力に自信を持ち、世界と共に生きる心豊かな子ども」を育むことを目指す。

(2) 地域の合意

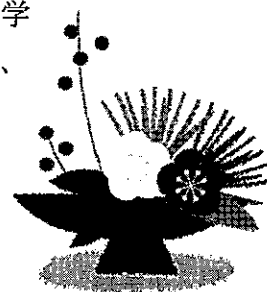
学校は地域と密接に関わっているため、学校の適正配置には地域(通学区域)の皆さんの合意が大前提である。

(3) 通学の安全確保

国の通学基準は、概ね小学校4km以内、中学校6km以内となっています。小中学校へはなるべく歩いて通学出来ることが望ましいと考えますが適正配置を行うことで通学距離が長くなる場合は通学の安全、安心について特に配慮する。

(4) 通学区域(学校区)と地域コミュニティ

本市では、住所により就学する学校を指定しています。現在の学校区は、学校規模や通学



距離、安全性をはじめ歴史的経緯や河川などの地理的な条件に加え、自治会等の地域活動にも考慮して設定しています。

学校区は、地域コミュニティ協議会をはじめいろいろな団体や地域の皆さんの活動単位となっていますので、出来るだけ現在の学校区を基本として望ましい教育環境を確保していくこととします。

(5) 適正規模について

本市の望ましい小中学校の適正規模は審議会の答申を踏まえ検討した結果、通常学級数で表すこととし以下のとおりとします。

小学校の適正規模：12学級以上24学級以下

中学校の適正規模：9学級以上18学級以下

ア、適正規模についての考え方

子どもたちはある程度の人数がいて多数で豊かな人間関係が経験できる、活気ある環境の中で、切磋琢磨し未来に向かって互いに成長していくことが望ましいです。

学校規模によるいろいろなメリット、デメリットを「教育環境」、「指導体制」、「学校運営」の3つの視点から検討し子どもたちにとって望ましい教育環境となるように小中学校の適正規模を定めます。

以上の基本的考え方から策定された「適正配置基本方針(案)」に対し市民意見募集(パブリックコメント)は、8月1日から8月31日の募集期間で、提出者23人、提出件数45があり、総体意見では「基本方針(案)」に賛成、同意するが大半であったそうです。

秋葉区小中学校の学級数別一覧表 平成23年5月1日現在 平成29年度推計

*小中学校とも通常学級を表しています。 *生徒数単位：人

平成23年5月1日現在		平成29年度推計			平成23年5月1日現在		平成29年度推計			備考				
No.	小学校名	生徒数	学級数	生徒数	学級数	増減	No.	中学校名	生徒数	学級数	生徒数	学級数	増減	関係コミュニティ協議会名
1	荻川小学校	499	16	616	20	117	1	第二中学校	461	12	612	16	151	荻川コミュニティ協議会
2	結小学校	660	20	684	21	24								
3	満日小学校	62	6	38	5	-24								満日コミュニティ協議会
4	阿賀小学校	255	11	193	7	-62	2	第五中学校	472	13	404	11	-68	阿賀浦コミュニティ協議会
5	新関小学校	79	6	83	6	4								新関コミュニティ協議会
6	第二小学校	473	16	373	12	-100								東部コミュニティ協議会
7	第一小学校	452	15	415	14	-37	3	第一中学校	580	16	564		-16	中央コミュニティ協議会
8	第三小学校	688	22	602	18	-86								西部コミュニティ協議会
9	金津小学校	313	12	257	11	-56	4	金津中学校	178	6	144	6	-34	金津コミュニティ協議会
10	小合東小学校	76	6	65	6	-11								小合コミュニティ協議会
11	小合小学校	95	6	93	6	-2	5	小合中学校	102	3	89	3	-13	
12	小須戸小学校	272	12	207	8	-65	6	小須戸中学校	297	9	234	7	-63	小須戸小学校校区コミュニティ協議会
13	矢代田小学校	229	9	184	7	-45								山ノ手コミュニティ協議会
		4,153		3,810		-343			2,090		2,047		-43	

上記の秋葉区小中学校学級数別一覧表、平成29年度推計値を比較照合して見ると秋葉区の教育施設がどの位置にあるかがお判りいただけと思います。

そして、これからの少子化等による適正配置等の課題は避けて通れないことと思いますが、当

該保護者はじめ、それぞれの地域の皆さんや各種団体等の合意が当然必要ではないでしょうか。

我々コミ協も学校区に設立されておりますので、今後多いに協力していく必要があるのではないかと考えています。

最後になりましたが、会員の皆さんにとって、本年が充実した1年になりますようご祈念申し上げます。

秋葉区自治協議会会議報告

秋葉区自治協議会委員

小川 一 雄



新年あけましておめでとうございます。今年もよろしくお願ひ申し上げます。さて、昨年4月から阿賀浦コミニティ協議会から自治協議会委員として参画させていただきましたので、会議内容の一部ですがご報告させていただきます。

一つ目、スポーツ施設整備の一環では「新津地域学園庭球場整備事業」として、同敷地内に夜間照明付き人口芝テニスコートを成25年度工事実施（予定）で整備するとのことです。これは、テニス愛好者のニーズに応えるためと地域スポーツの振興を図ることを目的に整備するとのことです。

二つ目、新津図書館改築計画について、会議資料から抜粋しご報告いたします。

1、合併建設計画における位置付け

現図書館は、昭和53年（1978年）に「新津市視聴覚センター」を併設開館し、平成3年（1991年）に「新津市教育相談室」を併設。築後33年を経過し、老朽化とともに手狭となり、また、多様化する利用者ニーズに対応出来なくなってきていることから、秋葉区の核となる中心館として整備するものとして合併建設後期実施計画に盛り込まれた。

2、改築にあたっての基本的方針

「秋葉区民の身近な学びと情報の拠点」として整備する。

- 1) 設計にあたっては、意見交換会を開催するなど住民の意見を聴取し、可能な限り設計に反映させる。
- 2) 施設規模を拡大し、市内図書館とのネットワークを活かした多様で豊富な資料や情報の提供を行い、利用者の利便性を高める。
- 3) 秋葉区の中心図書館として、荻川・金津・小須戸地区図書室を支援する。
- 4) ボランティアとの協働を進め、市民とともに歩む図書館づくりを進める。
- 5) 併設している「視聴覚センター分館」の基本機能を残し、「秋葉区教育相談室」を現状どおり併設する。

3、建設の概要

- 1) 建設場所 現施設に隣接する駐車場用地
- 2) 敷地面積 約4,700㎡
- 3) 施設規模・内容 ア、延床面積 2,300㎡程度
イ、主な内容
・図書館面積 2,100㎡程度（現状 1,213㎡の1.7倍）
・一般閲覧室（8万冊）、書庫（5万冊）

4、意見交換の一部をご報告いたします。

（問）改築ということですので、今までの図書館はそのままで、隣の駐車場に新たに増設とい

うことですか。

(答) 中央図書館長

現在の図書館を残したまま工事を進めて行き、新しいものが出来てから現図書館の解体に入るといふ予定にいます。

(問) そうしますと、駐車場はなくなるのでしょうか。

(答) 中央図書館長

最終的には出来上がりますが、工事中一時的にご不便をかけることがあろうかと思ひます。なお、これについては、請負業者が決まり、工事の工程や工事車両のルートが決まらなると詳細が決められないので決まり次第、関係者に説明させていただこうと考えていますし、完成後の現図書館の解体計画などから、駐車場については全体的には決まっていますが設計の中で極力工夫して行こうと考えています。

平成23年度各部実施行事

23年度に実施した各部の行事について、各部長から次年度実施に参考に資する意見などを含め、実施状況報告をいただきましたので報告します。

文化教養部

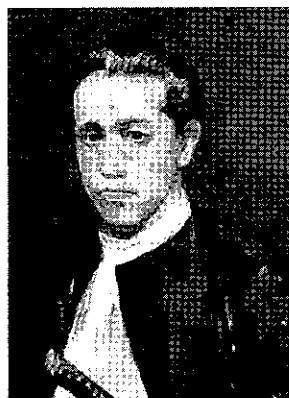
部長 阿部和博

今年度も多くの参加をいただき、予定した3つの行事を無事実施出来ました。

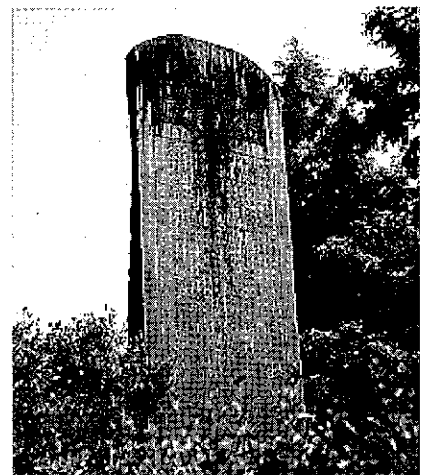
- ① 第2回盆踊り大会 …… 8月6日に昨年同様、地域学園グラウンドを会場に開催。昨年を上回る400人程度の参加で大いに盛り上がりました。関係者の皆さん、大変ご苦労様でした。
- ② 第5回芸能祭 …… 秋深まる10月16日、第五中学校体育館を会場に今年も賑々しく開催いたしました。芸達者の皆さんの熱演に酔いしれ、楽しい一日を過ごすことができました。
- ③ 史跡めぐり (北越戦争をたどる旅)
…………… 今回も岡三郎さんを講師に10月30日、幕末期最大の内戦「戊辰戦争」に焦点を当て、長岡藩「河井継之助」と新政府軍「岩村精一郎」の小千谷談判決裂の場「慈眼寺」や殉職者墓地の「船岡公園」など戦争ゆかりの地を大型バスで探訪しました。



長岡藩家老 河井継之助



西軍軍監 岩村精一郎



会見記念碑 (碑文 徳富蘇峰撰)

保健福祉部

部長 城向政秀

当部では次の3事業を実施いたしました。開催にあたり関係者並びに参加者の皆さんご協力ありがとうございました。

- ① 第5回ゲートボール大会 …… 6月12日(日) 中新田ゲートボール場を会場に参加者40名で実施。優勝：中新田
 - ・ルール熟知のベテラン選手の減少化傾向にあるのが現状と課題と見受けられる。
- ② 第5回ソフトボール大会 …… 9月25日(日) 阿賀小学校グラウンドを会場に参加者75名で開催。優勝：新金沢町
 - ・初めて中学生の参加により、世代間交流が図られたことは良かったのではないか。
 - ・4～5位決定戦を採用。
 - ・学校行事が重なり排水のよい第五中学校のグラウンド確保が困難な状況にある。

③ 第2回フローカーリング大会

…………… 11月23日(水) 祝日、新津

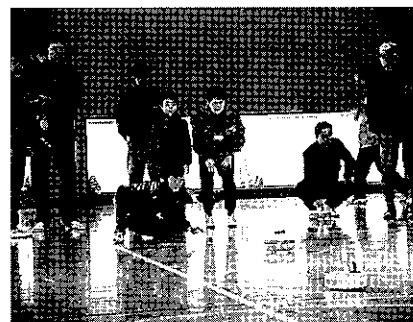
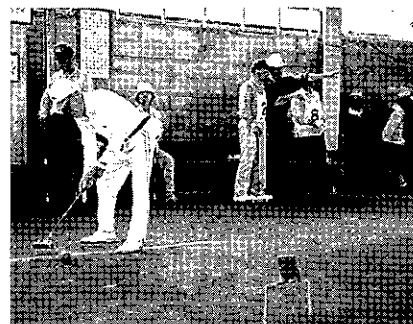
B & G 海洋センターを会場に参加者82名で決勝トーナメントを初めて採用し実施。

優勝：「団体」大安寺、「チーム」大安寺B

- ・小学生から70代と幅広い年代参加で世代間交流が図られる中、会場を揺る盛り上がりがあったのは良かったのではないか。
- ・試合数が少ないとの声があったので、次回は時間延長等を含め内容を要検討したい。

平成24年度開催には、本年度に増して多くの参加者をお待ちしています。

また、上記種目について、日ごろから練習に参加してみたいと思われる方には当方までお問い合わせ下さい。ご連絡をお待ちしています。



子ども育成部

部長 嶋倉陽平

昨年と同様、子ども育成部では「凧作り・凧あげ」、「キックベースボール大会」を行いました。

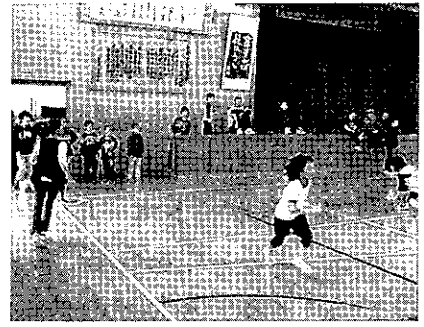
9月18日(日) 38名の参加を受けて阿賀小学校体育館で和凧作り、出来上がった凧をグラウンドで飛ばしました。女子生徒も作り方を質問して自分で作っていました。

白根の凧会館で売っているセットで説明書を見て作ると、意外と簡単に作ることが出来、よく上がる凧が完成しました。竹ひごに触れる良い機会になったと思います。お子さんの手伝いに苦労していた父兄もおられました。全員完成し飛ばすことが出来ました。

11月13日(日)、阿賀小学校体



育館で「キックベースボール大会」を行いました。40名の参加で、中新田、新金沢町・東町混合、女子バスケの4チームでトーナメント戦を行い、中新田チームの優勝でした。みんな勝利に向かって走り回り、汗をかいていました。父兄の方々もスコアや塁審でゲームを手伝っていただき楽しんで頂けたようですし、地域の子どもたち・保護者の方々の交流の場にもなって良かったと思います。



檀一雄 句碑「七松の……」に想う

寄稿者 大安寺 岡 三 郎

秋葉区中新田と阿賀野市下里を結ぶ阿賀浦橋。阿賀野川に架かるこの橋上から川上を望んだ先には越後山脈が連なり、その中央には五頭山がある。一番形の好い山である。河面が緩やかな朝のひとつときには、時として逆さになった山影を映しだすこともある。

かつて、小説家檀一雄氏を案内された岡村正平氏（旧岡村書店＝近家屋書店主）の語られたところによれば、檀氏は此の地から遠望して「日本一！」と驚きの声を発せられたとか。岡村氏は、その足で共に歩いて檀氏を大安寺にあった旧阿賀小学校迄案内された由。檀一雄の盟友であった坂口安吾、その父仁一郎の旧邸があったところなのである。

それ迄第二小学校の分教場であったのが独立校舎となって間もないころで、まだ坂口家旧邸の痕跡を一部に残した儘であったという。初代校長は、後藤寿衛先生であられた。

話が前後するが安吾の祖父得七は、同村の神明宮裏手に居を構えていたのだが、手狭になって新居を別に求めていた。新居宅は村の上手にある約三反歩程度の土地に、村松藩主の隠宅「南御所」と言われる建物を移築して建てられたものという。だが、その頃から安吾の父仁一郎・五峰は、政界に進出をめざしていたために活動の拠点を新潟市に求めていた。この新しい居宅地には松の古木が立ち並んでいて風趣に富んでいたから仁一郎も気に入っていたのであろう。

五峰の誌作品中にも折々うかがわれるし、雅号にした「五峰」は遥かに望む五頭山を、屋敷地内の松から採ったと思われる。「七松山人」など、大いに重用していることから充分窺い知れるであろう。

得七は、この地で明治39年死去する迄居住を続けたのである。

新潟市に居を移し、空家となった仁一郎邸を、阿賀浦村では小学校とするために買収した。それまで石動邸を小学校にしていたのだが、折しも明治40年の学制改革（小学校6年制・高等科2年制）等もあって、この地を小学校としたのである。

大正14年3月31日付の辞令で此の校舎に赴任した坂口タキノ先生は、「屋内運動場には大きな柱が三本もあって、廊下にはランプが10個もぶら下がっていた」ことや「校庭には枝振りの良い松の木があり、その1本には藤がからんで季節になると美しい花を咲かせてくれた」と述べている。（『阿賀小百年史』）。また、初代校長の後藤先生は、「校舎改築の際に坂口献吉さんの希望で主屋の一部を改装して学校図書館としたいと費用寄付の申し出があり、馬場工務店が工事を受け持ち「五峰館」と命名された」と語られている。（この建物は、現在坂口日出雄氏邸内に移築、保存されている。）

檀一雄氏の突然の訪問を受けた後藤校長先生の求めに応じて、一葉の色紙が残された。

亡友の 泳ぎし跡か 川広し 大安寺にて 檀一雄

これらのいきさつからして、檀一雄氏が旧阿賀小学校を訪ねられたのは、安吾の「ふるさととは……」の碑の除幕式が行われた昭和32年6月30日と思われる。

（『坂口献吉追悼録』による。）

例年より早い雪で豪雪地帯は大変だそうですが、案外雪が少ない状況に安堵の日々。昨年は東日本の大地震、地震に起因する原発事故など大変な年。昨年の漢字は「絆」でした。東日本他の早い復興を願うとともに当協議会もこの絆をより強くし、よりよい年に出来たらと強く願うところです。

広報部一同

編集後記